

平成30年度・令和元年度 図書館部会協議事項の経過について

1. 協議テーマ

「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」

2. 日時（回数）

- （第1回）平成30年5月15日（火）
- （第2回）平成30年10月30日（火）
- （第3回）平成31年2月5日（火）
- （第4回）令和元年5月28日（火）

3. 協議テーマの選定理由

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものである。

しかし、我が国における子どもの読書離れが言われて久しく、また本町もその例外ではない。そこで、本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために町や図書館、また地域として何ができるか、何をすべきかなど今後の取り組み方策について協議し提案するもの。

4. 協議内容

- （第1回）趣旨説明、協議テーマの決定
- （第2回）テーマに関する協議
- （第3回）テーマに関する協議（委員提案資料に基づき）
- （第4回）テーマに関する協議（委員提案資料に基づき）

5. 委員からの主な意見

- わくわく読書マラソンは非常に良い企画で、全年齢を対象にすべき。
- 今回の図書館まつりはとても良い視点。このイベントの集客が今後の利用にどう結び付くか注目している。
- 総合図書館へは、小学校低学年までは、父、母、祖父、祖母に連れてきてもらうことが多いため、連れてくる側の、一般の方が来るきっかけ作りが欲しい。
- 小学生の子のための本を自分（大人）のカードで多く借りていたため、実際に小学生はもっと多くの本を読んでいるのかもしれない。

- 総合図書館で読み聞かせのための情報が得られ、「相談承ります。」といったサポートをしてもらえると良い。
- 中学校の図書室は、新しい本が多く入るようになって利用が増えている。中学生は本に関心があるし、本を読んでいると感じている。
- 子どもに対する「積極的な働きかけ」といった意味で、先生方に総合図書館に関心を持ってもらうことは大切なポイント。先生方の会議に図書館会議室を使うなど、自然に図書館に関心を持たれるような施策を行ってはどうか。
- 学校図書室の活性化のため、学校図書室を総合図書館の分室にするといった発想の転換も必要。
- 総合図書館に図書のリクエストをし、学校で受け取れるようなサービスや、スマホが利用券の代わりになったら良い。
- 中学生は、総合図書館の学習室を利用している。(しかし読書にはつながっていない。)
- ターゲットを明確にすることが大切。乳幼児、小、中、高校生の区分ごとが妥当か。
- ◇ 家庭、地域、学校等での人づくり、環境づくり、情報収集・発信の方策を検討する。
- ◇ 図書館の認知、図書館利用の促進について、現在の取組で足りているか。イベントによる集客は単年のものであり、今後の図書館利用に結びつくか未知数である。
- ◇ 子どもたちに図書の利用を促すために、学校の先生に関わってほしい。ブックトーク等を行うことで、図書に関心を持たせ、貸出率の増加につなげることができる。
- ◇ ホームページから総合図書館の蔵書検索ができるので、学校にPRしたらよい。
- ◇ 高校生は通学時間や部活動などで開館時間内での利用は難しいが、友達からの口コミなどで、図書館につながりできれば、利用促進も見込める。